

# 鳥インフルエンザ関係府省庁連絡会議

日 時：令和4年11月23日（水）

議 題：香川県観音寺市及び宮城県気仙沼市の家きんにおける鳥インフルエンザの疑似患畜の発生について

(鳥インフルエンザ事案)

総理指示

- 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- 現場の情報をしっかり収集すること。
- 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

# 高病原性鳥インフルエンザ発生状況について

農林水産省

令和4年11月23日

1	高病原性鳥インフルエンザとは	…	1
2	高病原性鳥インフルエンザの発生事例について	…	2
3	総理指示を受けた対応について	…	5
4	防疫措置の進捗状況	…	6
5	過去の発生事例	…	9
6	韓国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況	…	10
7	世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況	…	11
8	輸出への影響	…	13

# 1 高病原性鳥インフルエンザとは

## (1) 原因（病原体）

○ I Eが作成した診断基準により高病原性鳥インフルエンザウイルスと判定されたA型インフルエンザウイルス

元気消失



## (2) 対象家きん

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥 及び七面鳥

## (3) 症状・特徴

元気消失、食餌や飲水量の減少、産卵率の低下、顔の腫れ、トサカや脚の変色(紫色)、咳、鼻水、下痢。

急性例ではこれらの症状を認めず、急死する場合もある。

※人獣共通感染症：海外では、家きん等との密接接触に起因する高病原性鳥インフルエンザウイルスの人の感染及び死亡事例も報告。

## (4) 発生状況

渡り鳥により国内に持ち込まれることが多く、冬期に発生しやすい。我が国において、直近では、平成26、28、29、令和2、3年度に発生。

※内閣府食品安全委員会によると、「我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考える」としている。

# 2 高病原性鳥インフルエンザの発生事例について①

## (1)国内1例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 岡山県倉敷市の養鶏場(採卵鶏)、約17万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 2戸・25.5万羽、3km-10km圏内 6戸・86.4万羽、合計 8戸・111.9万羽
- ③発生経緯 : 10月27日(木)、簡易検査陽性と判明。10月28日(金)7時00分に疑似患畜と確定。

## (2)国内2例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 北海道厚真町の養鶏場(肉用鶏)、約17万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 2戸・32.3万羽、3km-10km圏内 6戸・38.2万羽、合計 8戸・70.4万羽
- ③発生経緯 : 10月27日(木)、簡易検査陽性と判明。10月28日(金)10時00分に疑似患畜と確定。

## (3)国内3例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 香川県観音寺市の養鶏場(採卵鶏)、約4万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 22戸・87.1万羽、3km-10km圏内 66戸・343.9万羽、合計 88戸・431.0万羽
- ③発生経緯 : 10月31日(月)、簡易検査陽性と判明。11月1日(火)5時00分に疑似患畜と確定。

## (4)国内4例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 茨城県かすみがうら市の養鶏場(採卵鶏)、約104万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 2戸・99.1万羽、3km-10km圏内 25戸・40.9万羽、合計 27戸・140.0万羽
- ③発生経緯 : 11月3日(木)、簡易検査陽性と判明。11月4日(金)7時00分に疑似患畜と確定。

## (5)国内5例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 岡山県倉敷市の養鶏場(採卵鶏)、約51万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 2戸・12.1万羽、3km-10km圏内 7戸・32.4万羽、合計 9戸・44.5万羽
- ③発生経緯 : 11月3日(木)、簡易検査陽性と判明。11月4日(金)8時00分に疑似患畜と確定。

## (6)国内6例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 北海道伊達市の養鶏場(肉用鶏)、約15万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 3戸・5.6万羽、3km-10km圏内 9戸・10.4万羽、合計 12戸・16.1万羽
- ③発生経緯 : 11月6日(日)、簡易検査陽性と判明。11月7日(月)14時00分に疑似患畜と確定。

## (7)国内7例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 岡山県倉敷市の養鶏場(採卵鶏)、約3万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 1戸・7.7万羽、3km-10km圏内 6戸・32.4万羽、合計 7戸・40.1万羽
- ③発生経緯 : 11月10日(木)、簡易検査陽性と判明。11月11日(金)7時00分に疑似患畜と確定。

## 2 高病原性鳥インフルエンザの発生事例について②

### (8)国内8例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 和歌山県白浜町の家きん飼養施設(あひる等)、約60羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 なし、3km-10km圏内 6戸・0.5万羽、合計 6戸・0.5万羽
- ③発生経緯 : 11月10日(木)、簡易検査陽性と判明。11月11日(金)8時00分に疑似患畜と確定。

### (9)国内9例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 兵庫県たつの市の養鶏場(採卵鶏)、約4.4万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 なし、3km-10km圏内 23戸・9.3万羽、合計 23戸・9.3万羽
- ③発生経緯 : 11月12日(土)、簡易検査陽性と判明。11月13日(日)9時00分に疑似患畜と確定。

### (10)国内10例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 鹿児島県出水市の養鶏場(採卵鶏)、約12万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 22戸・81.2万羽、3km-10km圏内 85戸・428万羽、合計 107戸・509.2万羽
- ③発生経緯 : 11月17日(木)、簡易検査陽性と判明。11月18日(金)4時00分に疑似患畜と確定。

### (11)国内11例目の概要 (H5N1)

- ①場所・飼養規模 : 新潟県阿賀町の養鶏場(肉用鶏)、約15万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 3戸・46.8万羽、3km-10km圏内 1戸・17.7万羽、合計 4戸・64.5万羽
- ③発生経緯 : 11月17日(木)、簡易検査陽性と判明。11月18日(金)7時00分に疑似患畜と確定。

### (12)国内12例目の概要 (H5亜型)

- ①場所・飼養規模 : 宮崎県新富町の養鶏場(採卵鶏)、約16万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 1戸・1.9万羽、3km-10km圏内 77戸・281.4万羽、合計 78戸・283.3万羽
- ③発生経緯 : 11月19日(土)、簡易検査陽性と判明。11月20日(日)4時00分に疑似患畜と確定。

### (13)国内13例目の概要 (H5亜型)

- ①場所・飼養規模 : 青森県横浜町の養鶏場(肉用鶏)、約12.2万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 5戸・87万羽、3km-10km圏内 4戸・71万羽、合計 7戸・158万羽
- ③発生経緯 : 11月19日(土)、簡易検査陽性と判明。11月20日(日)15時00分に疑似患畜と確定。

### (14)国内14例目の概要 (H5亜型)

- ①場所・飼養規模 : 香川県観音寺市の養鶏場(肉用鶏)、約2.4万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 12戸・60.2万羽、3km-10km圏内 89戸・404.8万羽、合計 101戸・465万羽
- ③発生経緯 : 11月21日(月)、簡易検査陽性と判明。11月22日(日)5時00分に疑似患畜と確定。

## 2 高病原性鳥インフルエンザの発生事例について③

### (15) 国内15例目の概要 (H5亜型)

- ①場所・飼養規模 : 香川県観音寺市の養鶏場(採卵鶏)、約1.4万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 12戸27.1万羽、3km-10km圏内 57戸・366.1万羽、合計 69戸・393.3万羽
- ③発生経緯 : 11月22日(火)、簡易検査陽性と判明。11月23日(水)5時00分に疑似患畜と確定。

### (16) 国内16例目の概要 (H5亜型)

- ①場所・飼養規模 : 宮城県気仙沼市の養鶏場(肉用鶏)、約2.1万羽
- ②周辺農場 : 3km圏内 2戸1.8万羽、3km-10km圏内 6戸・12.4万羽、合計 8戸・14.2万羽
- ③発生経緯 : 11月22日(火)、簡易検査陽性と判明。11月23日(水)11時00分に疑似患畜と確定。



### 3 総理指示(10月28日)を受けた対応について

#### <総理指示>(10月28日)

- ① 家きん業者に対し、嚴重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- ② 現場の情報をしっかり収集すること。
- ③ 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- ④ 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

#### <対応>

- ① 全都道府県に対し、鳥インフルエンザの早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を改めて通知し、家きん農場における監視体制の強化を実施。併せて、経営支援対策を周知。
- ② 農林水産省政務による都道府県知事との意見交換を実施するとともに、疫学、野鳥等の専門家からなる疫学調査チームを派遣。
- ③ 関係省庁<sup>(※)</sup>と連携し、都道府県が実施する防疫措置(当該農場の飼養家きんの殺処分及び焼埋却、移動制限区域・搬出制限区域の設定、消毒ポイントの設置等)について、職員の派遣等、必要に応じた支援を実施。(また、環境省において発生農場周辺半径10kmを「野鳥監視重点区域」に指定し、県に野鳥の監視を強化するよう要請。)
- ④ 消費者、流通業者、製造業者等に対し、鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等(鶏肉・鶏卵の安全性の周知、発生県産の鶏肉・鶏卵の適切な取扱いの呼び掛け等)を実施。

(※)関係各省:消費者庁、警察庁、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省及び防衛省

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況①

令和4年11月23日 11時00分現在

事例数：11都道府県、16事例（防疫措置対象：18農場 3施設 約281万羽）				農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）					
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3		措置完了日（0日目）		10日目		21日目	
					防疫措置（殺処分、消毒等） 開始	完了	清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除	
①	岡山 1	養鶏場 （岡山県倉敷市）	令和4年 10月28日	約17万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月27日	10月28日 7時00分	11月3日 12時55分	11月18日 19時00分	11月18日 20時00分	
②	北海道 1	養鶏場 （北海道厚真町）	令和4年 10月28日	約17万羽 （肉用鶏・平飼い）	10月28日	10月28日 10時30分	11月3日 8時00分	11月19日 15時00分	11月20日 0時00分	
③	香川 1	養鶏場 （香川県観音寺市）	令和4年 11月1日	約4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	10月31日	11月1日 5時00分	11月4日 17時00分	11月19日 20時00分	11月20日 0時00分	
④	茨城 1	養鶏場 （茨城県かすみがうら市）	令和4年 11月4日	約104万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月3日	11月4日 7時00分	11月22日 18時00分			
⑤	岡山 2	養鶏場 （岡山県倉敷市）	令和4年 11月4日	約51万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月4日 （持ち回り）	11月4日 8時00分	11月18日 13時30分			
⑥	北海道 2	養鶏場 （北海道伊達市）	令和4年 11月7日	約15万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月7日 （持ち回り）	11月7日 14時00分	11月13日 8時00分			
⑦	岡山 3	養鶏場 （岡山県倉敷市）	令和4年 11月11日	約3万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月11日 （持ち回り）	11月11日 7時00分	11月18日 13時30分			
⑧	和歌山 1	家きん飼養施設 （和歌山県白浜町）	令和4年 11月11日	約60羽 （あひる等）	11月11日 （持ち回り）	11月11日 9時20分	11月12日 5時00分			
⑨	兵庫 1	養鶏場 （兵庫県たつの市）	令和4年 11月13日	約4.4万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月12日	11月13日 9時00分	11月15日 20時00分			
⑩	鹿児島 1	養鶏場 （鹿児島県出水市）	令和4年 11月18日	約12万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月17日	11月18日 4時00分	11月21日 8時00分			
⑪	新潟 1	養鶏場 （新潟県阿賀町）	令和4年 11月18日	約15万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月17日	11月18日 7時00分				
⑪' （関連）	新潟 1'	食鳥処理場 （新潟県新発田市）	—	約6,000羽 （肉用鶏）		11月18日 7時00分				
⑫	宮崎 1	養鶏場 （宮崎県新富町）	令和4年 11月20日	約16万羽 （採卵鶏・ケージ飼い）	11月19日 （持ち回り）	11月20日 4時00分	11月22日 18時00分			
⑬	青森 1	養鶏場 （青森県横浜町）	令和4年 11月20日	約12.2万羽 （肉養鶏・平飼い）	11月20日 （持ち回り）	11月20日 15時00分				
⑬' （関連）	青森 1'	食鳥処理場 （青森県横浜町）	—	約8,000羽 （肉養鶏）		11月20日 15時00分				
⑭	香川 2	養鶏場 （香川県観音寺市）	令和4年 11月22日	約2.4万羽 （肉用鶏・平飼い）	11月22日 （持ち回り）	11月22日 5時00分				

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況①

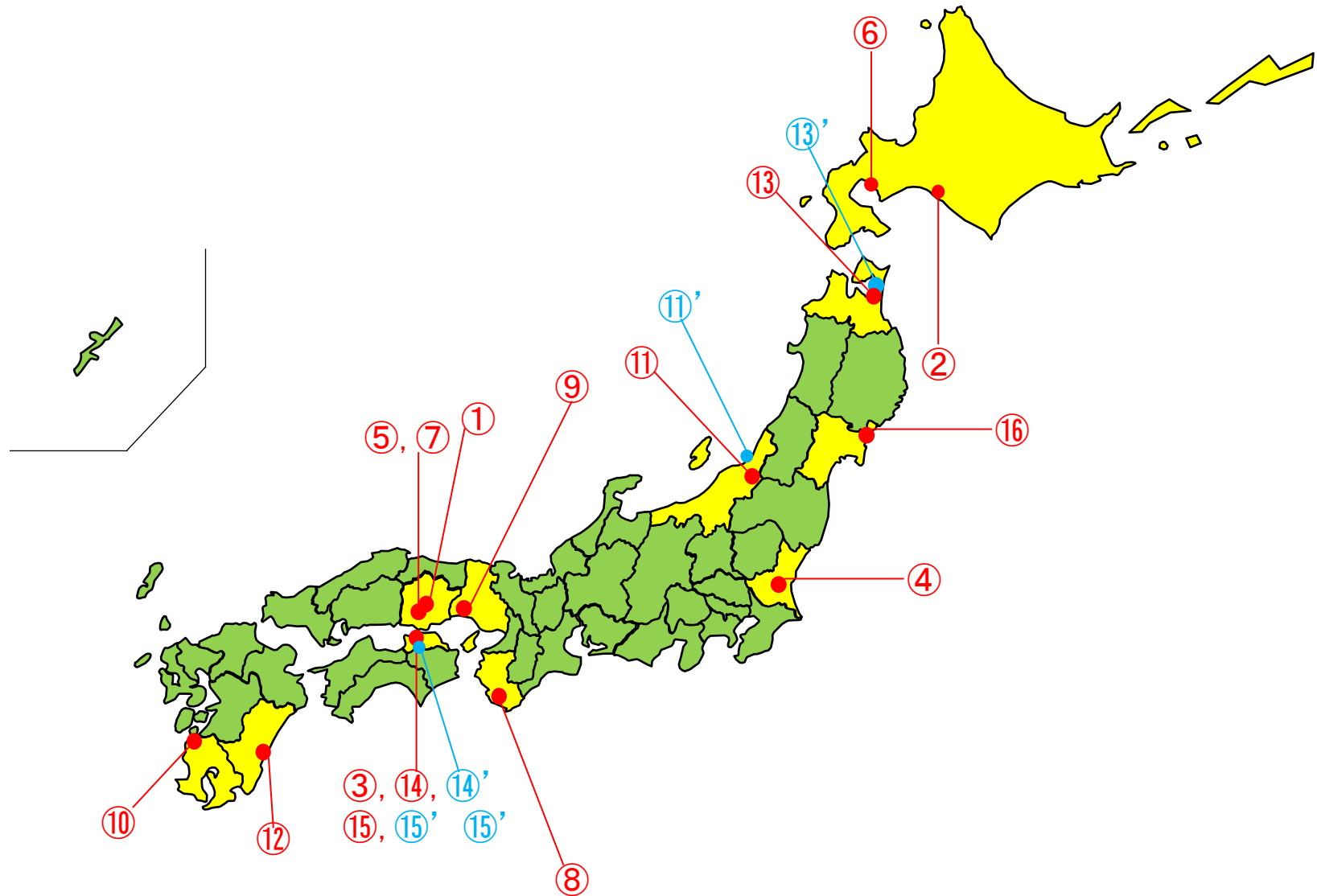
令和4年11月23日 11時00分現在

事例数：11都道府県、16事例（防疫措置対象：18農場 3施設 約281万羽）					農林水産省 対策本部	防疫対応状況（予定は最短の場合）				
発生場所		発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3	措置完了日(0日目)		10日目		～		21日目
						防疫措置（殺処分、消毒等）		清浄性 確認検査	搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
				開始	完了					
⑭' (関連)	香川 2	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月22日	約0.9万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月22日 (持ち回り)	11月22日 5時00分				
⑮	香川 3	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月23日	約1.4万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月23日 (持ち回り)	11月23日 5時00分				
⑮' (関連)	香川 3	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月23日	約0.8万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月23日 (持ち回り)	11月23日 5時00分				
⑮' (関連)	香川 3	養鶏場 (香川県観音寺市)	令和4年 11月23日	約1.2万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月23日 (持ち回り)	11月23日 5時00分				
⑯	宮城 1	養鶏場 (宮城県気仙沼市)	令和4年 11月23日	約2.1万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月23日 (持ち回り)	11月23日 11時00分				

※1 疑似患畜と確認した日 ※2 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数

※3 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。ただし、疫学関連農場については疫学調査を実施していないため飼養方法は記載せず。

# 高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況②



## 5 過去の発生事例～近年の高病原性鳥インフルエンザの発生とその対応

### ＜平成15年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～3月…3府県4事例 約27万羽（山口県、大分県、京都府）  
 （※我が国で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生）

### ＜平成18年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～2月…2県4事例 約16万羽（宮崎県、岡山県）

### ＜平成22年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

11～3月…9県24事例 約183万羽（島根県、宮崎県、鹿児島県、愛知県、大分県、三重県、奈良県、和歌山県、千葉県）

### ＜平成26年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

4月…1県1事例 約10万羽（熊本県）  
 12～1月…4県5事例 約35万羽（宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県）

### ＜平成28年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

11～3月…9道県12事例 約166万羽（青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県）

### ＜平成29年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

平成30年1月…1県1事例 約9.1万羽（香川県）

### ＜令和2年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

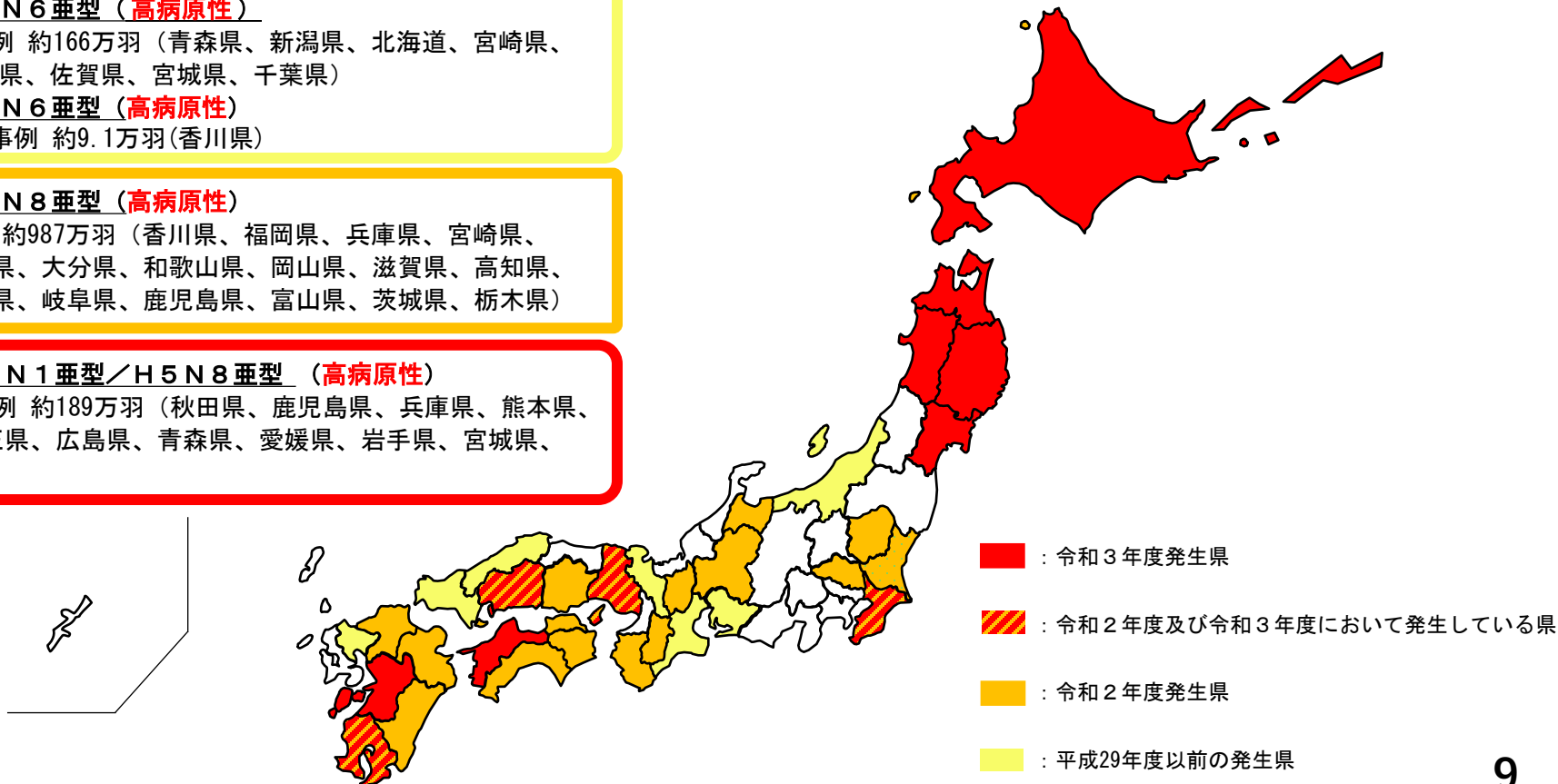
11～3月…18県52事例 約987万羽（香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県）

### ＜令和3年度の発生＞ H5N1亜型／H5N8亜型（高病原性）

11～5月…12道県25事例 約189万羽（秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道）

### ※野鳥における発生（高病原性）

- ・平成20年 全3県
- ・平成22～23年 全16県  
 （他3県における動物園等の飼育鳥からウイルスを確認）
- ・平成26～27年 全6県12例（H5N8型）
- ・平成28～29年 全22都道府県 218例（H5N6型）
- ・平成29～30年 全3都県45例（H5N6型）
- ・令和2～3年 全18道県58例（H5N8型）
- ・令和3～4年 全8道府県107例（H5N1型/ H5N8型）



# 6 韓国の家畜における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年10月以降)

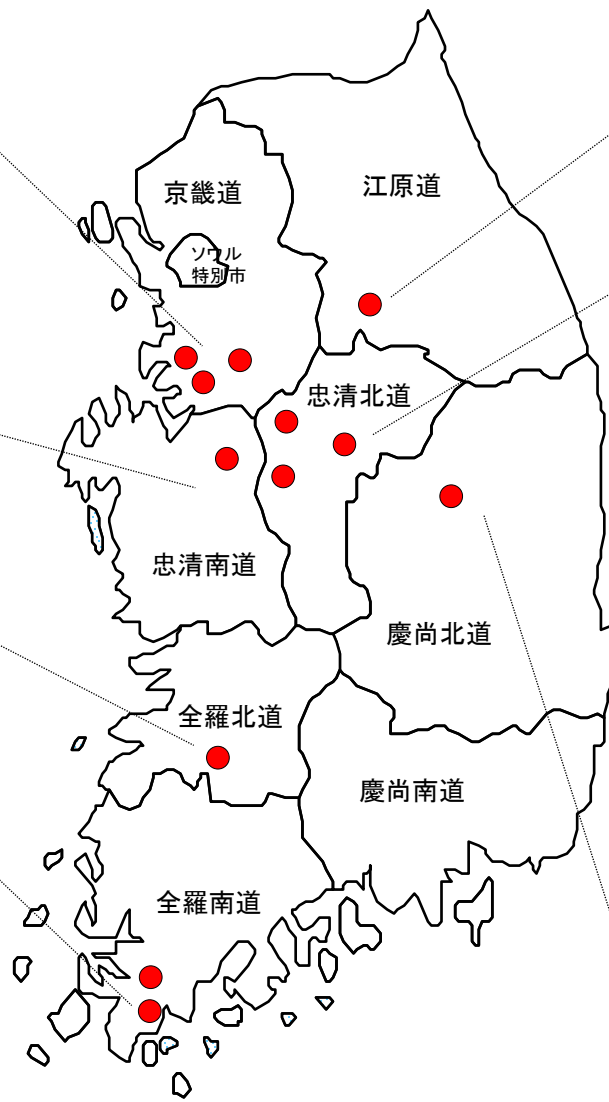
出典: 韓国農林畜産食品部  
 ※日付は症状が確認された日または検体採取日

京畿道				
龍仁市	肉用種鶏	2022.11.15	約4.2万羽	H5N1
華城市	肉用種鶏	2022.11.16	約2.4万羽	H5N1
平沢市	採卵鶏	2022.11.17	約0.6万羽	H5N1

忠清南道				
天安市	種アヒル	2022.11.9	約0.8万羽	H5N1

全羅北道				
淳昌郡	採卵鶏	2022.11.5	約15.5万羽	H5N1

全羅南道				
長興郡	肉用アヒル	2022.11.15	約1.1万羽	H5N1
羅州市	肉用アヒル	2022.11.22	約0.8万羽	H5 (病原性検査中)



江原道				
原州市	採卵鶏	22.11.14	約6.7万羽	H5N1

忠清北道				
鎮川郡	肉用アヒル	2022.10.26	約1.8万羽	H5N1
清州市	肉用アヒル	2022.11.3	約1.2万羽	H5N1
清州市	肉用鶏	2022.11.4	約5.8万羽	H5N1
清州市	肉用アヒル	2022.11.4	約1.3万羽	H5N1
清州市	ウズラ	2022.11.8	約50万羽	H5N1
清州市	肉用アヒル	2022.11.9	約2.2万羽	H5N1
清州市	種アヒル	2022.11.10	約0.4万羽	H5N1
忠州市	肉用アヒル	2022.11.12	約0.7万羽	H5N1
清州市	種アヒル	2022.11.17	約0.8万羽	H5N1

慶尚北道				
醴泉郡	種アヒル	2022.10.17	約1.0万羽	H5N1
醴泉郡	肉用種鶏	2022.10.21	約3.2万羽	H5N1

2022年11月22日時点  
 農林水産省動物衛生課

● : 発生地点

# 7 世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)①

## ヨーロッパ

			スウェーデン	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.5.25] 2022.2.23 [2022.10.5]	フィンランド	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.8.16] 2021.2.8 [2021.11.9]
アイスランド	H5N1 (高)	2022.4.15 [2022.9.22]		H5N5 (高)	2021.3.2			[2022.10.14]
アイルランド	H5N1 (高)	2021.12.17 [2022.10.17]		H5N8 (高)	[2021.5.25] 2021.4.19	フェロー諸島	H5N1 (高)	[2022.6.18] 2022.10.20
	H5N3 (高) H5N8 (高)	[2021.1.8] [2021.1.29]	スバルバル諸島	H5N5 (高) H5N1 (高)	[2021.10.13] [2022.6] 2022.9.17	フランス	H5N1 (高)	[2022.10.19] 2021.4.26
アルバニア	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.3.18] 2022.3.23	スペイン	H5N8 (高) H5N1 (高)	[2022.10.21] [2021.1.26] 2022.5.24		H5N8 (高)	[2021.9.11] [2021.9.14]
イタリア	H5N1 (高)	2022.10.21 [2022.10.12]	スロバキア	H5N8 (高) H5N1 (高)	[2022.2.7] 2021.1.22	ブルガリア	H7N7 (高) H5N3 (低) H5 (高) 不明 (高)	2021.3.9 2022.6.9 2022.10.21 [2022.4.8]
	H5N8 (高)	2021.2.19 [2021.2.1]		H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2021.1.15] 2021.12.26 [2022.10.19]		H5 (高) H5N1 (高)	[2022.7.8] 2022.10.21
ウクライナ	H7N7 (低) H5 (高)	2021.1.29 2021.12.12 [2021.4.2]	スロベニア	H5N1 (高) H5N2 (高) H5N8 (高)	[2021.11.13] [2021.9.26] [2021.10.8]	ベルギー	H5 (高) H5N1 (高)	[2022.10.19] 2021.1.26
英国	H5N8 (高) H5N1 (高)	2021.2.16 2022.10.20 [2022.10.20]	セルビア	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.9.27] 2022.4.13		H5N5 (高) H5N8 (高)	2021.1.26 [2021.8.31]
	H5N3 (高) H5N8 (高)	[2021.1.14] 2021.3.21 [2021.11.7]	チェコ	H5N5 (高) H5N8 (高)	[2021.2.24] 2021.5.17	ポーランド	H5N1 (高)	2022.9.20 [2022.7.14]
エストニア	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.3.18] 2021.10.21 [2021.9.27]	デンマーク	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.4.19] 2021.10.30 2022.3.28		H5N2 (高) H5N5 (高) H5N8 (高)	2022.2.28 [2021.1.31] 2021.8.9
オーストリア	H5N1 (高)	2022.1.20 [2022.4.8]		H5N3 (高) H5N5 (高) H5N8 (高)	[2022.10.25] [2021.4.29] [2021.3.19]	ポルトガル	H5N1 (高)	[2021.6.17] 2022.9.28
	H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2021.2.25] [2021.4.27] 2022.10.15 [2022.10.7]		H5N1 (高)	2022.1.6 [2022.1.3] 2022.10.16	ボスニア・ヘル ツェゴビナ	H5N1 (高)	[2022.9.16] [2021.11.1]
オランダ	H5N3 (高) H5N4 (高) H5N8 (高)	[2021.1.4] [2021.3.4] 2021.5.21 [2021.12.1]	ドイツ	H5N3 (高) H5N4 (高) H5N5 (高)	[2021.12.22] [2021.4.16] 2021.3.4	モルドバ	H5N1 (高) 不明 (高)	2022.8.6 2022.5.13
	H5N1 (高) H5N1 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2022.10.7] [2021.1.4] [2021.3.4] 2021.5.21 [2021.12.1]		H5N8 (高)	2021.3.10 [2021.3.10] 2021.6.23 [2021.7.1]	モンテネグロ ラトビア	H5N1 (高) H5N1 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2022.4.4] [2022.1.17] [2021.3.16] [2022.6.23]
北マケドニア	H5N1 (高)	2022.2.17 [2022.4.18]		H5N8 (高)	[2021.3.10] 2021.6.23 [2021.7.1]	リトアニア	H5N1 (高) H5N8 (高)	2021.6.2 [2022.6.23]
ギリシャ	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.2.17] [2022.4.18]	ノルウェー	H5 (高) H5N1 (高)	[2021.3.10] 2021.11.16 2022.10.20	リユニオン	H5N1 (高) H7N7 (高)	[2022.10.12] 2021.3.26
クロアチア	H5N1 (高)	2022.5.25 [2022.2.9] [2021.3.14]		H5N5 (高) H5N8 (高) H5N1 (高)	[2022.8.10] [2022.7.7] [2021.7.29]	ルクセンブルク	H5N1 (高) H5N8 (高)	[2022.2.4] [2021.9.3]
	H5N8 (高) H5N1 (高)	2021.11.23 [2022.3.7] [2021.2.4]	ハンガリー	H5N5 (高) H5N8 (高)	2022.6.7 [2022.5.30] [2021.2.23]	ルーマニア	H5N1 (高)	2022.3.26 [2022.3.17] [2021.2.19]
スイス	H5N4 (高)	[2021.2.4]		H5N5 (高) H5N8 (高)	2021.2.1 [2021.3.2]		H5N5 (高) H5N8 (高)	2021.5.13 [2021.1.13]

※日付は発生日又は検体回収日に基づく

※[ ]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す

※本図は発生の有無を示したもので、

その後の清浄性確認については記載していない

※型別に最新の発生事例を記載

2022年11月1日現在

出典:OIE等

# 7 世界における高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年以降)②

## 南北アメリカ

米国	H5 (高)	[2021.12.30]
	H5N1 (高)	2022.10.19 [2022.10.6]
カナダ	H5N3 (低)	2022.1.5
	H5N1 (高)	2022.10.14 [2022.10.14]
メキシコ	H7N3 (高)	2022.4.21
	H5N1 (高)	[2022.10.11]
コロンビア	H5N1 (高)	[2022.10.5]

## アジア

中国	H5N1 (高)	[2022.7.9]
	H5N6 (高)	[2021.4.8]
	H5N8 (高)	[2021.6.11]
韓国	H5 (高)	[2021.12.1]
	H5N1 (高)	2022.10.26 [2022.3.24]
	H5N8 (高)	2021.4.6 [2022.1.24]
台湾	H5N2 (低)	[2021.11.23]
	H5N3 (低)	[2021.12.9]
	H5N8 (低)	[2021.11.1]
	H7N7 (低)	[2021.12.16]
	H7N9 (低)	[2021.11.2]
	H5N1 (高)	[2022.5.24]
香港	H5N1 (高)	2022.7.12 [2022.2.23]
	H5N5 (高)	2021.12.16 [2021.1.11]
	H5N1 (高)	[2022.1.21]
インド	H5N8 (高)	[2021.1.28]
	H5N1 (高)	2022.3.30 [2021.11.18]
イラン	H5N8 (高)	2021.3.15 [2021.11.28]
	H5N5 (高)	2021.12.11
	H5N8 (高)	2021.6.9 [2021.11.28]
イスラエル	H5N1 (高)	2022.1.9 [2022.1.27]
	H5N8 (高)	[2022.5.6]
ネパール	H5N1 (高)	2022.6.3 [2022.2.22]
	H5N8 (高)	2021.5.22
フィリピン	H5N1 (高)	2022.7.25
	H5N8 (高)	2022.2.28
	H5N1 (高)	2022.10.14
ベトナム	H5N6 (高)	2021.8.26
	H5N8 (高)	2021.12.22
	H5 (高)	2021.8.29
ラオス	H5 (高)	2021.8.29
カンボジア	H5N1 (高)	2021.1.5

## 中東

イラク	H5N8(高)	2022.6.6
クウェート	H5N8(高)	2021.3.19
アフガニスタン	H5N8(高)	2021.2.7
パキスタン	H5(高)	2021.11.25
	H5N8(高)	2021.8.5

## ロシア・NIS諸国

ロシア	H5 (高)	2021.12.1 [2022.3.15]
	H5N1 (高)	2022.8.12 [2022.10.10]
カザフスタン	H5N5 (高)	[2021.3.30]
	H5N8 (高)	2021.1.27 [2021.1.5]
カザフスタン	H5 (高)	2021.9.28 [2022.6.19]

## アフリカ

南アフリカ共和国	H5 (高)	2021.5.13
	H5N1 (高)	2022.10.4
	H5 (低)	[2022.5.23] 2021.7.14 [2021.7.5]
セネガル	H5N2 (低)	2021.3.25
	H7 (低)	2021.2.4
ナイジェリア	H5N1 (高)	[2022.1.25]
モーリタニア	H5N1 (高)	2022.4.26
アルジェリア	H5N1 (高)	2021.1.27
	H5N8 (高)	2021.1.17 [2021.2.22]
ニジェール	H5N1 (高)	2022.1.12
マリ	H5N1 (高)	2022.3.3
	H5 (高)	2021.5.28
トーゴ	H5N1 (高)	2022.1.1
ガーナ	H5 (高)	2021.6.26
コートジボワール	H5N1 (高)	2021.11.21
	H5 (高)	2021.7.27
ベナン	H5N1 (高)	2021.10.5
ボツワナ	H5N1 (高)	2021.7.24
カメルーン	H5N1 (高)	2022.1.29
ナミビア	H5N1 (高)	[2022.2.2]
ブルキナファソ	H5N1 (高)	2021.12.15
ギニア	H5N1 (高)	2022.5.10

※日付は発生日又は検体回収日に基づく  
 ※[ ]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す  
 ※本図は発生の有無を示したもので、  
 その後の清浄性確認については記載していない  
 ※型別に最新の発生事例を記載

2022年11月1日現在

出典:OIE等

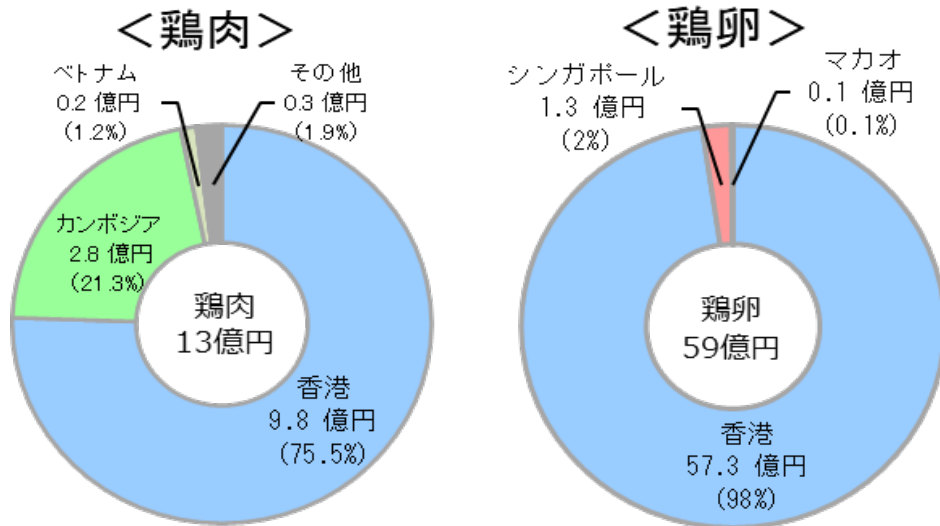


## 8 輸出への影響

- 1 高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認を受け、日本全国の家きん肉及び卵に対する輸出検疫証明書の交付を一時停止。
- 2 速やかに輸出相手国との協議を行い、非発生県からの輸出を再開。
- 3 防疫措置完了から一定期間\*発生がないことを確認した上で、発生県からの輸出再開に向けた協議を行う。

\* OIEコードでは、防疫措置完了から28日と規定

### 【鶏肉及び鶏卵の輸出実績(2021年)】



### 【輸出再開状況】

輸出先	非発生県からの輸出
香港	10月28日に輸出再開
台湾	10月28日に輸出再開
カンボジア	制限区域以外から輸出可能*
シンガポール	11月7日に輸出再開
ベトナム	11月4日に輸出再開
マカオ	11月4日に輸出再開
米国	11月4日に輸出再開

\* カンボジアは、日本国内で流通している家きん肉・肉製品の輸入を認めている。

令和4年11月23日

家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ疑い事例に係る  
環境省の対応について

環境省自然環境局

香川県の養鶏場（観音寺市）及び宮城県の養鶏場（気仙沼市）における高病原性鳥インフルエンザの疑い事例への環境省の対応は、以下のとおり。

- 発生農場周辺半径 10km を「野鳥監視重点区域」に指定し、香川県及び宮城県に野鳥の監視を強化するよう要請。
- 環境省中国四国地方環境事務所及び東北地方環境事務所に香川県及び宮城県と連携し、現地周辺の野鳥に関する情報収集を行うよう指示。
- 香川県及び宮城県と調整の上、野鳥での感染状況の把握等を目的とした鳥類相等の調査を実施予定。
- 国内における家きんでの発生を受けた野鳥監視の指定状況については、別表1のとおり。

（参考）野鳥等における取組

- 冬鳥の渡来に合わせ、10月～翌年4月にかけて全国の渡来地で野鳥の糞便を採集するとともに、通年で死亡野鳥等から検体を採取し、鳥インフルエンザウイルスの保有状況に関する調査を実施（野鳥サーベイランス）。
- 国内の複数箇所が高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されているため、野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルを最高レベルの「対応レベル3」として、野鳥の監視を強化中。
- 死亡野鳥、野鳥糞便、環境試料（水）及び家きんにおいて高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された各地点の周辺半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に指定。同区域内では野鳥での感染状況の把握等を目的とした鳥類相等の調査等を実施し、野鳥の監視を強化。
- 国内の野鳥・飼養鳥における今シーズンの発生状況は、それぞれ別表2、3のとおり。

## 【別表1】

### 令和4（2022）年シーズン家きんの鳥インフルエンザ発生状況

家きん ○例目	場所		野鳥監視重点区域	
	都道府県	市町村	指定日	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
1例目	岡山県	倉敷市	10/28	12/1予定
2例目	北海道	厚真町	10/28	12/1予定
3例目	香川県	観音寺市	11/1	12/5予定 (野鳥19例目、飼養鳥1例目と 重複)
4例目	茨城県	かすみがうら市	11/4	未定
5例目	岡山県	倉敷市	11/4	12/16予定
6例目	北海道	伊達市	11/7	12/11予定
7例目	岡山県	倉敷市	11/11	12/16予定
8例目	和歌山県	白浜町	11/11	12/11予定 (飼養鳥2例目と重複)
9例目	兵庫県	たつの市	11/13	12/14予定 (野鳥39例目と重複)
10例目	鹿児島県	出水市	11/18	未定 (野鳥・出水市の疑い事例と重 複)
11例目	新潟県	阿賀町	11/18	未定
12例目	宮崎県	新富町	11/20	未定
13例目	青森県	横浜町	11/20	未定

## 【別表 1】

令和 4（2022）年シーズン家きんの鳥インフルエンザ発生状況

家きん ○例目	場所		野鳥監視重点区域	
	都道府県	市町村	指定日	解除日 (防疫措置が完了した日の 次の日を1日目として 28日目の24時に解除)
14例目	香川県	観音寺市	11/22	未定 (15例目と重複)
15例目	香川県	観音寺市	11/23	未定
16例目	宮城県	気仙沼市	11/23	未定

【別表2】

令和4（2022）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥 ○例目	回収日 採取日	場所		検体情報			遺伝子検査	野鳥監視重点区域	
		都道府県	市町村	検体の種類	種名	回収羽数/回収数	亜型	指定日	解除日
1例目	9/25	神奈川県	伊勢原市	死亡野鳥	ハヤブサ	1	H5N1亜型高病原性	9/26	10/23解除
2例目	10/4	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	1	H5N1亜型高病原性	10/4	11/11解除 (5例目と重複)
3例目	10/11	福井県	南越前町	死亡野鳥	ハヤブサ	1	H5亜型高病原性	10/14	11/8解除
4例目	10/8	北海道	別海町	野鳥糞便	ガンカモ類	105 (うち5検体で 検出、その後3 検体で検出)	H5亜型高病原性	10/17	11/5解除
5例目	10/14	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	1	H5亜型高病原性	10/17	11/11解除
6例目	10/16	新潟県	新潟市	衰弱野鳥	ハヤブサ	1	H5亜型高病原性	10/16	11/18解除 (7例目と重複)
-	10/21	静岡県	湖西市	死亡野鳥	マガモ	1	陰性 (高病原性でない鳥インフル エンザウイルス)	10/21	10/24解除
7例目	10/21	新潟県	聖籠町	死亡野鳥	ノスリ	1	H5亜型高病原性	10/26	11/18解除
8例目	10/23	北海道	紋別市	野鳥糞便	ガンカモ類	109 (うち1検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	10/31	11/20解除
9例目	10/28	北海道	札幌市	死亡野鳥	ハシブトガラス	1	H5亜型高病原性	10/31	11/25予定
-	10/23	北海道	斜里町	死亡野鳥	ハシブトガラス	1	陰性 (高病原性でない鳥インフル エンザウイルス)	10/26	11/2解除
10例目	11/1	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	1	H5N1亜型高病原性	11/2	12/20予定 (40例目と重複)
11例目 ※	11/2	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	1	H5N1亜型高病原性	11/4	12/20予定 (40例目と重複)
12例目 ※	11/3	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	2	H5N1亜型高病原性	11/4	12/20予定 (40例目と重複)
13例目 ※	11/4	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	4	H5N1亜型高病原性	11/4 11/6	12/20予定 (40例目と重複)
14例目	11/2	宮城県	石巻市	死亡野鳥	オオハクチョウ	1	H5亜型高病原性	11/7	11/30予定
15例目	11/5	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	3	H5N1亜型高病原性	11/6	12/20予定 (40例目と重複)
16例目	11/6	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	7 (うち6検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/6 11/7	12/20予定 (40例目と重複)
17例目	11/4	宮城県	仙台市	死亡野鳥	オオハクチョウ	1	H5亜型高病原性	11/8	12/2予定
18例目	11/7	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	7 (うち5検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/7	12/20予定 (40例目と重複)
19例目	11/7	香川県	観音寺市	死亡野鳥	ヒドリガモ	1	H5亜型高病原性	11/9	12/5予定

## 【別表2】

令和4（2022）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥 ○例目	回収日 採取日	場所		検体情報			遺伝子検査	野鳥監視重点区域	
		都道府県	市町村	検体の種類	種名	回収羽数/回収 数	亜型	指定日	解除日
20例目	11/6	宮崎県	日向市	死亡野鳥	マガモ	1	H5亜型高病原性	11/6	12/4予定
21例目	11/6	北海道	斜里町	死亡野鳥	オオセグロカモメ	1	H5亜型高病原性	11/6	12/14予定 (11/16斜里町ハシブトガ ラス疑い事例と重複)
22例目	11/8	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	7	H5N1亜型高病原性	11/8 11/9	12/20予定 (40例目と重複)
23例目	11/7	鹿児島県	出水市	環境試料（水）	—	14 (うち2検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/14	12/20予定 (40例目と重複)
24例目	11/9	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	7 (うち5検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/9	12/20予定 (40例目と重複)
25例目	11/10	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	10	H5N1亜型高病原性	11/10 11/11	12/20予定 (40例目と重複)
26例目	11/11	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	16 (うち3検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/11	12/20予定 (40例目と重複)
27例目	11/10	北海道	斜里町	衰弱野鳥	ハシブトガラス	1	H5亜型高病原性	11/10	12/14予定 (11/16斜里町ハシブトガ ラス疑い事例と重複)
28例目	11/12	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	26 (うち4検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/12	12/20予定 (40例目と重複)
29例目	11/13	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	15 (うち2検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/13	12/20予定 (40例目と重複)
30例目	11/14	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	28 (うち3検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/14 11/15	12/20予定 (40例目と重複)
31例目	11/14	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	マナヅル	2	H5N1亜型高病原性	11/14 11/15	12/20予定 (40例目と重複)
32例目	11/15	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	オナガガモ	1	H5N1亜型高病原性	11/15	12/20予定 (40例目と重複)
33例目	11/11	山形県	鶴岡市	死亡野鳥	コハクチョウ	1	H5亜型高病原性	11/17	12/9予定
34例目	11/13	秋田県	大館市	死亡野鳥	オオハクチョウ	1	H5亜型高病原性	11/17	12/11予定
-	11/13	北海道	釧路市	衰弱野鳥	キンクロハジロ	1	陰性 (高病原性でない鳥インフル エンザウイルス)	11/13	11/18解除
35例目	11/15	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	35 (うち4検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/15 11/16	12/20予定 (40例目と重複)
36例目	11/16	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	28 (うち5検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/16	12/20予定 (40例目と重複)
37例目	11/14	鹿児島県	出水市	環境試料（水）	—	14 (うち2検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/21	12/20予定 (40例目と重複)

【別表2】

令和4（2022）年シーズンの野鳥の鳥インフルエンザ発生状況

野鳥 ○例目	回収日 採取日	場所		検体情報			遺伝子検査	野鳥監視重点区域	
		都道府県	市町村	検体の種類	種名	回収羽数/回収 数	亜型	指定日	解除日
38例目	11/15	香川県	丸亀市	死亡野鳥	コウノトリ	1	H5亜型高病原性	11/15	12/13予定
39例目	11/16	兵庫県	姫路市	死亡野鳥	ハヤブサ	1	H5亜型高病原性	11/16	12/14予定
40例目	11/17	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	74 (うち4検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/17 11/22	12/20予定
41例目	11/17	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	マナヅル	5 (うち2検体で 検出)	H5N1亜型高病原性	11/17	12/20予定 (40例目と重複)
42例目	11/18	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	マナヅル	2	H5N1亜型高病原性	11/18	12/20予定 (40例目と重複)
疑い 事例	11/16	北海道	網走市	死亡野鳥	オオセグロカモメ	1	検査中	11/17	12/14予定
疑い 事例	11/16	北海道	斜里町	衰弱野鳥	ハシブトガラス	1	検査中	11/17	12/14予定
疑い 事例	11/18	北海道	帯広市	死亡野鳥	マガモ	1	検査中	11/18	12/16予定
疑い 事例	11/20	北海道	釧路市	衰弱野鳥	タンチョウ	1	検査中	11/20	12/18予定
疑い 事例	11/19	北海道	中標津町	死亡野鳥	オオハクチョウ	1	検査中	11/20	12/17予定
疑い 事例	11/20	新潟県	胎内市	衰弱野鳥	ハヤブサ	1	検査中	11/20	12/18予定
疑い 事例	11/21	北海道	八雲町	死亡野鳥	ハシブトガラス	1	検査中	11/21	12/19予定
疑い 事例	11/19	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	46	検査中	11/19	12/20予定 (40例目と重複)
疑い 事例	11/19	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	マナヅル	2	検査中	11/19	12/20予定 (40例目と重複)
疑い 事例	11/20	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	ナベヅル	47	検査中	11/20	12/20予定 (40例目と重複)
疑い 事例	11/21	鹿児島県	出水市	死亡野鳥	マナヅル	2	検査中	11/21	12/20予定 (40例目と重複)

※鹿児島県出水市のナベヅルの事例の発生件数については、鹿児島県と調整の上、回収日ごとに各1例として、カウント方法を変更しました。それにより、赤字部分の例数

【別表3】

令和4（2022）年シーズンの飼養鳥の鳥インフルエンザ発生状況

飼養鳥 ○例目	回収日 採取日	場所		検体情報			遺伝子検査	野鳥監視重点区域	
		都道府県	市町村	検体の種類	種名	回収羽数/回収 数	亜型	指定日	解除日
1例目	11/7	香川県	丸亀市	死亡飼養鳥	コバクチョウ	1	H5亜型高病原性	11/7	12/5予定
2例目	11/13	和歌山県	白浜町	衰弱飼養鳥	モモイロペリカン	5 (うち2検体で検 出)	H5亜型高病原性	11/15	12/11予定